

第1回日野市子ども・子育て支援会議（要約）

出席委員 19人中2人出席

欠席委員 小俣委員

原口委員

日 時 平成26年7月30日（水） 18:30～20:30

場 所 市役所5階 505会議室

次 第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 各専門部会報告について

(2) (仮称)新ひのっ子すくすくプランの骨子案について

(3) その他

4 閉会

事務局	1 開会
事務局	2 資料紹介 会議次第、委員名簿、1. 保育・教育専門部会報告書、2. 地域支援専門部会報告書、3. 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」年度別報告シート、4. (仮称)ひのっ子すくすくプラン骨子案、速報値
会長	会長あいさつ
事務局	傍聴者について
会長	傍聴者に入場していただく。議事に入る。4ヶ月間で2専門部会の会議各2回が開催された。各部会担当者から説明がある。
事務局	<資料(1)をもとに保育・教育専門部会からの報告>
会長	ありがとう。何か質問があれば、なければ、次の部会からの説明に移る。
事務局	<資料(2)をもとに地域支援専門部会からの報告>
事務局	<資料(3)について変更点について説明>
事務局	<資料(4)について説明>
委員の主な質問・ご意見等	
<p>・学童クラブでは今まで保育園のように面積等厳しい条件はなかったが、市の条例で学童の基準が決まる。今回、専門部会では、国の基準に準ずるといった話があった。高学年育成を考えるのであれば、1.65㎡では足りないとの懸念もある。当面の間等、措置の期間があるとしたら、具体的な期間や条件を示すべき。</p>	

→基本的に省令で示された基準について、日野市は概ねクリアしている。現状維持しつつ、今後5年間で体制を取っていったら、と考えている。

・市では、民間保育園で学童やると毎年言っている。民間の活力を入れ、公立と民間で協力する必要がある。今の公立学童を何とかするという考え方も1つ。法律が変わるタイミングで変えて欲しいという案も言って欲しい。保護者の声がないと私たちも動けない。保育園は20時までやっているが、学童はやっていない。子どもの幸せはどこにあるのか。ぜひ学童委員の皆さん、子どもの幸せを進めたいので、よろしくお願ひしたい。

・理念が「育てようみんなの子ども」「作ろうみんなの安心社会」等、どこかの市のスローガンのようになってしまったのだが、将来像を掲げていく中で、1番「親育ち」、子どもの成長とともに親も成長して行く。子どもを産み育てていく中で初めて親になるところから、親になって必要な情報、気づき、学びの機会を提供し、悩まない社会を実現したい。子どもを育てていく中で、同じ保育園の中で他のご両親と意見交換や兄弟のいる保護者に、一人っ子の保護者が相談し、励ましてもらったり。先生と別の立場で気軽に話し合える。2番「子育て」だが、子どもは自ら成長する場所を選べない。子どもを尊重し、自宅で見たいというのわかるが、実際は難しい。家族や先生、第3の大人、学童の先生や他の地域の方々が子どもの発達段階に応じた成長の場を与え、見守る場を皆で作って行けたら良い。3番「地域育て」は地域の特性や経験豊かな人材を活かしていく。親としても安心でき、もっと広がると良いと思った。4番「次世代育て」は、子どもを育てるのは私たち皆の将来を作ること。子ども=将来。これからの社会を任せられるのは子どもしかいない。そのために子育てに寄り添い、次世代に思いやりと生きる力を与える。これからの将来、子どもに夢がなくてはいけない。財政や年金、負担ばかりでなく、希望を示してあげたい。

・「協働」という言葉で書かせてもらった。「みんなで」とおっしゃったように、それを「協働」という言葉で表した。同じ保育園だった親御さんはとても仲が良く、助かっている。担任でうまくいかないところはお父さんお母さんが知っているからと、相談に乗ってくれ、話が早く進む。その力をお借りしながら、子どもたちが、次世代、日本、世界を背負っていく。自信を持って卒業させたい。

・「親育ち」というのは皆さん書いている。悩み。本当に必要だと痛切に感じている。子育てには悩みはつきものだ。一緒に考えてくれる人や場所が必要。1つではなく、色々な場所であった方がいいのではないか。しかし、主体はあくまでも親であることも残しておかなければならない。話を聞いて寄り添い、相談に乗ることは必要だが、あくまでも子育てをする主体は親であること、親の楽しさとか残しておかないといけない。

また、地域で育てるというのは必要だと思っている。地域の中で活躍できる場所が少ない。立場を超え、誰かのために活動する楽しさ、そういう場所が大切。「次世代育て」で、地域の人たちとの関わりを大切にしないといけない。「思いやり」と「前向きに」「生きる力を大切に」は必要。

・「子育て」や「親育ち」が重要でないというわけではなく、地域の立場から「次世代育て」と「地域育て」を前面に出させてもらった。子ども期に楽しく育っていくということは何

より重要だが、私たち地域の人間から見た、次世代の人材、子どもたちについて述べる。どうしても未就学児や小学生等、小さな子どもたちに目が行きがちだが、中学校過ぎてから子育てに悩んでいる人も、悩んでいる子どももたくさんいると思う。私たち地域の人間にとって、地域の人たちに主体的に関わってもらうことが非常に大きい。「子育て」について、「自己肯定観」が今の子どもたちにはないのではないかと。深く関わっていくにつれ、社会の中で役割を持つことによって、変わっていく。子どもが自己肯定し、自分の権利を認識することが非常に大切。どうしても親に振り回されがちだが、子どもが自分自身で考え「自分のことは自分で決定する」ことを認識し、親がそれを認めることが非常に必要。「子育て」のことは親の面からだけでなく、子どもの権利の面からも、書いたら良い。

・第4章基本目標、将来像の部分だが、どれが重要だから1番と言う訳ではないが、この形式で書かなければいけないのであれば、ここで今日決めても良いのではないかと。11人の意見で、順番がバラバラだが、1番多いのは「親育ち」「子育て」「地域育て」「次世代育て」。ちなみに私は「親育ち」「子育て」「地域育て」「次世代育て」の順で考えている。

・私は後期計画の策定に関わっている。「みんなで子どもを育て、子どもと育ち、繋がる地域と繋がる心」という部分をかなりダイナミックに前期から変えていくという経験をしている。「親育ち」「子育て」「次世代」という順番にし、当時は素晴らしいと思ったが、今、5年経って考えてみると、もう少し子ども主体に考えた方が良かったのではないかと思いついて始めている。今、子どもたちに色々手が入って、支援して育てていくという機運が高まっているが、「子ども自身がどうか」ということと、「有効なのか」という点から、「子ども自身が自分で育つ」ような、子どもの主体性を前面に出す方が良いのではないかと。もし順番をつけるとしたら、「子どもの権利を尊重する環境づくり」で、子どもの主体性を育てていけるようにしたい。子どもの主体性や子どもの権利を尊重する、計画策定であって欲しい。

・授業を観察に行くと、子どもの発想力に驚かされる。特に低学年の子どもの発想力は非常に豊か。高学年になると、分別が付き、自我意識が芽生えてくる。年金や借金等、将来への不安を抱えて育つのではなく、豊かな発想力を活かし、育てて欲しい。授業見て「自己肯定」の大切さを感じた。先生方が子どもたちの発言を否定しないよう、授業を行っていた。

・今の子どもたちは非常に情報を持っている。ワールドカップで活躍中のメッシ選手の動きを目で追える。動きを真似できる。学びが学校の先生の教え方だけじゃないことを良く知っている。だから先生方に対し、文句も言う。だから、おもしろい。

・子どもたちは部活や学校以外で、場所を見つけ、先生を見つけ、学んでいる。素晴らしい。日野市では、放課後、学校を開放しておらず、ボールを持っていくところとか限られている。近隣の公園は、小さい子が砂遊びをしており、体の大きい小学校高学年や中学生らは親御さんから怪訝な顔をされてしまう。小さい子だけでなく、大きな子どもたちが異年齢で遊べる場所や関われる場所が地域にもう少しあると良い。大人が提供するのではなく、子どもたち自身で探せるように。そして探せる子どもたちであって欲しい。

・子どもの育ちや成長、自ら学ぶ事例がたくさん出た。親が孤立したり、家庭に問題があ

ったり、母親が子育てできなかつたり。親が交通事故で死なないと対応しないのでは困る。いじめが激しくなってから、やっと対応するではいけない。昔からいじめはあった。子どもの権利、人権を擁護できる地域でなければ。子どもが自ら命を立つような地域社会ではいけない。大事にされた人は、人をいじめない。家庭、地域、学校でそういう育ちができるようになれば、日野市で生まれ育って良かったと思ってもらえるようになって欲しい。

・子どもの頃は、学校が終わると家に鞆を置いて、また学校に戻って、校庭で遊んだ。今は「ひのっち」や学童を使う子どもたちがいて、高学年以上の子がいたら、職員室から「大きい子は帰りなさい」という校内放送が入る。子どもたちの行き場所、遊び場がない。親の立場では、道路等でのボール遊びやめて欲しい。安全なところでのびのびと遊び、帰宅したらご飯を食べて寝るだけの状態が理想だ。

・「昔は良かった」というのが、今残ってないのが現状。学校で誰かが遊んでくれたり、近所の人が面倒を見てくれたりした記憶が残っている。親になった今、それらがなくなっていた。理由がわからず、気づいたらなくなっていた。

・子どもの権利はとても大切な問題で、貧困から子どもを守るという問題と、親の管理下に置かれずに子どもが親の顔色を気にすることなく育つことも大切。子どものために良かれと思って、どうしても過保護になりがちだが、大人の論理ではなく、子ども自身で遊べることも大きな意味がある。主体性や権利も含め、それらをうまくまとめられれば、計画も形になるのではないか。